

国立病院機構相模原病院
臨床研究センターにおける
成人アレルギー科研修内容

文責：谷口正実

国立病院機構相模原病院 臨床研究センターの変遷

- 昭和48年 国の難病対策の一環として、リウマチ・アレルギー基幹施設に指定
- 昭和50年 国立病院において初めて、臨床研究部が設置
- 平成11年 免疫異常(リウマチ・アレルギー)の中心施設として高度専門医療施設(準ナショナルセンター)に指定
- 平成17年 厚生科学審議会リウマチ・アレルギー対策委員会において、当院が我が国のリウマチ・アレルギー医療の中心的役割を果たすことが明記される(平成23年の改訂版でも同様の記載)
- 平成26年 アレルギー疾患対策基本法が立法化(適切なアレルギー医療が提供されるよう、国立成育医療センターと当院の整備を講じるものとする、と明記される)
- 平成29年度から、成育医療センター(小児)、と当院(小児、成人)が中心拠点病院として活動開始予定

中心拠点病院としての相模原病院の役割

1. 診断/治療が難しいアレルギー患者さんの診療の受け入れ
 1. 小児難治性アレルギー(食物アレルギー、アトピー、喘息など)
 2. 成人難治性アレルギー(ぜん息、薬剤アレルギー、血管炎など)
2. 人材育成
 1. 特に地域拠点病院で活躍できるアレルギー科医師の育成
 2. 地域で活躍できるコメディカルスタッフの育成
3. 臨床研究
 1. 国際レベルの(予防や根治につながる)研究、治療法の開発
 2. 疫学(患者さんの頻度や年次推移、発症しやすい要因)研究
4. 情報発信
5. 各都道府県における地域拠点病院との連携

成人アレルギー相模原病院における研修プログラム案

目標レベルA: 専門領域外におけるアレルギー疾患の知見を得る

目標レベルB: 都道府県拠点病院において、アレルギー診療の基礎を固める

目標レベルC: 都道府県拠点病院において、アレルギー診療を応用的に行う

目標レベルD: 成人アレルギー学のリーダーになるための基礎固め

達成目標レベル	期間	内容	相模原HPで受け入れ可能人数
A	短期数日	座学と実習による成人アレルギーに関する専門知識や基本的技能の習得 総合アレルギー講習会＋相模原臨床アレルギーセミナー:各2回にわたり内科アレルギー領域を重点的に履修(前者の実習講義においては、肺機能(スパイロ)、呼気NO、気道過敏性、プリックテスト、吸入指導、の5つの実習・講義を最低1回必ず受講する)	(受け入れ無し)
B	2週間	成人アレルギー領域の専門的な検査,対応、患者指導を臨床現場で習得 ①プリック/皮内閾値テスト、②薬剤負荷、NSAIDs不耐症検査、③気道過敏性/可逆性検査、④抗原吸入検査、⑤沈降抗体検査、⑥急速SCITの実際、⑦難治性咳嗽の鑑別、⑧吸入指導、⑨原因環境アレルゲン同定、⑩環境抗原の回避指導、⑪難治疾患 (①-⑥は実習、⑥-⑪はビデオ講義＋質疑応答)	1単位3名
C	1-2年	レジデントとして1年間以上勤務し、外来と病棟患者を受けもち、上級医師の指導と国内外の学会出席を通して、診断困難、難治、希少例の臨床を習得	年間5名?まで
D	3年以上	3年間以上勤務し、レベルCを経た後に、特に難治例の臨床に習熟する。さらに、国際学会での発表と国際レベルの臨床研究を行い、国際誌へ論文発表を行う。希望者には学位取得と海外留学の支援を行う。これらを通して、高い臨床と研究能力を習得し、将来の日本における成人アレルギー学の指導者となるための基礎固め	年間3名?まで

人材育成：相模原臨床アレルギーセミナー

(成人・小児アレルギー医師に向けて毎年8月に**3日間講習会**を開催中)



第11回
相模原臨床アレルギーセミナー
専門医を目指す医師 スキルアップを目指す専門医のためのプログラム

会期 2017年8月4日(金)・5日(土)・6日(日)3日間
①1日目 成人臨床アレルギー学
②2日目 アレルゲン、アレルギー検査、免疫療法
③3日目 小児臨床アレルギー学

会場 パシフィコ横浜 アネックスホールF201～F204

定員 250名 事前申込制 (お席に余裕は無い場合があります。)

申込方法 オンラインとFAXで受付致します。
【セミナーURL】 <http://sgmseminar.umin.jp/>
(お申し込みフォームをご確認ください。)

共催：独立行政法人国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
一般社団法人日本アレルギー学会
後援：公益財団法人日本アレルギー協会
事務局：独立行政法人国立病院機構相模原病院 臨床研究センター
セミナー代表 谷口 正実

2017年
2月1日(水)
受付開始

お問い合わせ先 運営事務局 株式会社コンベンションアカデミア
〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-3 本郷UCビル4F TEL 03-5805-5261 FAX 03-3815-2026 E-mail:sgmseminar@cees.co.jp

日本アレルギー学会との共催、パシフィコにて、**毎年参加者300名**
2007年第1回から**2018年で12回目(12年目)**を迎える
⇒**国内最大のアレルギーセミナー**

国立病院機構相模原病院 臨床研究センター

成人アレルギーB研修(2週間)の内容

- 開始時期:平成31年2月もしくは3月開始予定
- 受付人数:2週間単位、各単位2名以上3名まで
- 宿舎:病院宿舎
- 研修費:
- B研修内容:
 - 目的:成人アレ疾患の正しい診断、検査、治療や患者指導が可能となる
 - 内容
 - 外来(検査、診療、特殊検査)の見学
 - 病棟アレルギー患者の見学、症例検討
 - 成人アレルギーの診療ビデオ講習と質疑応答
 - 原因アレルゲン同定と指導
 - 薬剤アレルギーやNSAIDs不耐症の適切な対応
 - AIT、特に急速AITの実際と適応
 - 各種難治アレルギー疾患(10以上)の診断と最新治療
 - 難治性咳嗽の実態と対応
 - 化学物質過敏症の対応
 - 稀少アレルギー疾患のビデオ講習
 - その他

成人アレルギー領域における習得すべき検査、治療

- 喘息、咳の正確な鑑別診断と原因同定
- 原因アレルゲン同定
 - ✓ 血液IgE抗体検査の適応病態の理解と結果の解釈
 - ✓ プリックテスト、プリックプリックテスト、皮内テストの適応病態の理解と実施・解釈
 - ✓ アレルゲンコンポーネント解析の概念の理解と結果の解釈
- アレルゲン免疫療法(AIT)
 - ✓ SCITの適応患者の理解と実施
 - ✓ SLITの適応患者の理解と実施
- 喘息、咳
 - ✓ 気道過敏性検査の実施と結果の解釈
 - ✓ 気管支鏡検査の実施と結果の解釈
 - ✓ 高解像度肺CT(気道炎症の詳細な読影含む)の読影
 - ✓ 喘息重症化因子の理解とその対策
 - ✓ 気管支温熱療法(BT)
- アスピリン喘息、AERD(NSAIDs過敏喘息)
 - ✓ NSAIDs負荷試験の実施と結果の解釈
 - ✓ 尿中LTE4測定結果の解釈
- ABPM(Aspergillus、スエヒロタケ含む)、過敏性肺炎
 - ✓ 各種真菌に対する血清沈降抗体測定の適応疾患の理解と結果の解釈
 - ✓ 環境調査(飛散/原因真菌の同定、汚染場所の同定)の実施と環境対策助言
- EGPA/血管炎
 - ✓ IVIG、抗IL-5など重症EGPAへの対応
- 重症食物アレルギー/アナフィラキシー
 - ✓ 適切な診断、患者指導
 - ✓ プリックテストの実施と解釈
 - ✓ 食物負荷試験の実施
- 薬剤過敏/アレルギー(化学物質過敏症も含め)
 - ✓ 薬剤負荷試験の適応と実施
 - ✓ 適切な診断をくだせる能力
- 職業性喘息/アナフィラキシー/ハチアナフィラキシー
 - ✓ 原因抗原同定
 - ✓ ハチAITの実施

レベルC,Dで習得すべき**成人アレルギー**領域の重要疾患

(成人喘息有病率6%、アレルギー性鼻炎有病率47%であるが、難治例はその数%占める)
全ての疾患に適切に対応(診断と治療)できるよう修練する

★レベルCでは各患者を1名以上担当し、臨床能力を磨く

★レベルDでは、各疾患を3名以上担当し、臨床だけでなく、下級医師への指導と臨床研究を行えるレベルを目指す

● 難治性アレルギー内科疾患

- ステロイド依存喘息(成人喘息の5%)←正確な診断と長期予後を見越した治療/対応の習得
- 難治性咳嗽(紹介多い、非常に多い)←正確な診断と治療法の習得
- 難治性アスピリン喘息(成人喘息の数%)←正確な診断と指導/治療法の習得
- ABPM、ABPA、スエヒロタケ含む(成人喘息の2%)←正確な診断と指導/治療法の習得
- EGPA/血管炎(成人喘息の0.5%、重症喘息の数%)←正確な診断と指導/治療法の習得
- 重症食物アレルギー/アナフィラキシー(紹介多い、最近急増)←正確な診断と指導/治療法の習得
- 薬剤過敏/アレルギー(紹介やや多い)←正確な診断と指導/治療法の習得
- 職業性喘息/アナフィラキシー/ハチアナフィラキシー(少ない)←正確な診断と指導/治療法の習得
- 好酸球性肺炎/細気管支炎(少ない)←正確な診断と治療法の習得
- 過敏性肺炎(少ない)←正確な診断と指導/治療法の習得
- その他

● 難治性耳鼻科疾患

- 重症花粉アレルギー、好酸球性中耳炎、好酸球性鼻副鼻腔炎(最近増加、多い)
- アレルギー性真菌性副鼻腔炎(まれ)
- その他
 - 化学物質過敏症(増加している印象、鑑別疾患としても重要)←正確な診断と指導/治療法の習得

成人アレルギーD研修(原則3年以上)の内容と過去の実績

- **目標**: 将来の臨床アレルギー学のリーダーとなる人材になっていただく
＝成人アレルギー臨床を広範囲に、難治例、稀少疾患含め学ぶ
＋未開拓分野の新規治療法や病態解明なども目指す
- **処遇**
 - 非常勤医師(レジデント)としてアレルギー呼吸器内科病棟(受け持ち4-8名)・外来(週1回)に勤務
 - 週1回の外勤など可能
 - **勤務しながら大学院**(所属大学もしくは順天堂連携大学院)も可能
- **研修内容(積極的な国内外の学会発表と学位取得、留学へ)**
 - **基本は国立病院機構相模原病院アレルギー科勤務医としてまず専門医取得**
 - 年1回(～2回)の**海外学会発表**(指導医の指導のもとで、費用は原則支援)
 - 総会、研究会にできるだけ参加、年1-2回以上発表(費用は原則支援)
 - 上級医の指導のもと、**3-4年目に国際誌へ投稿し、学位取得へ**
 - その後、希望者は海外留学支援
- **過去の実績(15年間)**
 - 毎年、1-3名新規採用(2～4年間)
 - 全員が専門医と、ほぼ全員が学位取得
 - 学位取得はここ15年で10名以上(国際誌 IF4点以上にほぼ複数掲載され取得)
 - 海外留学支援: すでに4名が完遂(カロリンスカ研究所2名、ハーバード大2名)